

「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン ver. 2」の策定について

「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン」は、まちの活力や賑わいを主眼に置いたハード面・ソフト面からの総合的なまちづくり計画であり、区は平成18年12月に「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 1」を策定した。この度、警察大学校等跡地開発をはじめとするまちづくりの進捗を踏まえ、「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 2」へ改定したので、報告する。

1. 計画の位置づけ

中野駅周辺は、中野区基本構想において「持続可能な活力あるまち」の中心に、また中野区都市計画マスタープランにおいても、将来の区のまちの姿を先導する広域中心拠点として位置付けられ、「産業と人々の活力がみなぎるまち」として構築することとしている。

このことから、グランドデザインでは産業施策等の区の個別計画とも整合を図りながらソフト・ハード両面からのまちの将来像を示し、今後の中野駅周辺のまちづくりの具体化に向けた基本指針として活用するものである。

2. 策定の目的

- ・中野駅周辺のまちづくりについて、区民・民間事業者・行政が共通の目標・認識を持ち、まちづくりの機運を高める
- ・中野駅周辺のまちづくりについて広く区内外にアピールし、中野の存在感・発信力を高める

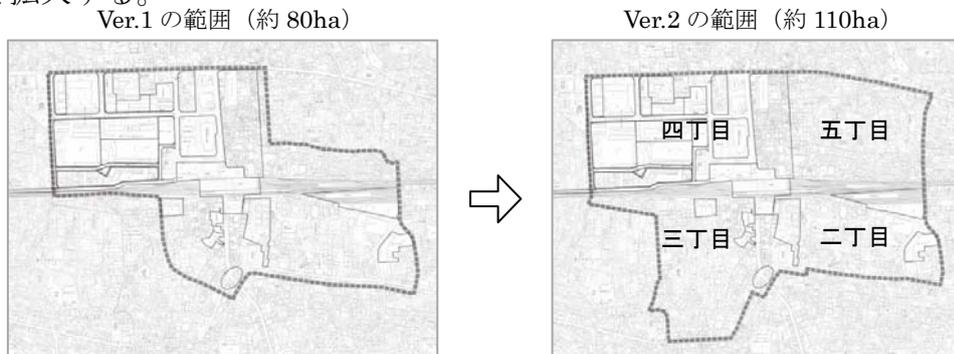
3. 改定までの経緯

平成18年12月	中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 1 策定
平成21年04月	中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 2(素案) の公表
平成21年05月	意見交換会等の実施（9か所 5/12～7/23）
平成21年09月	中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 2（案）の公表 パブリックコメント手続きの実施（9/7～9/28）
平成21年10月	中野駅周辺まちづくりグランドデザイン Ver. 2 の策定

4. 改定の主な内容（Ver. 1 との主な変更点）

(1) グランドデザインの策定範囲を約 80ha から約 110ha へ拡大

新たなまちづくりの影響と密接な関係にある住宅地について、駅周辺との連携を踏まえ検討することで総合的な魅力を高め、まち全体のポテンシャルをより向上させるために策定範囲を拡大する。



(2) 東京都の中における中野駅周辺の位置づけ

Ver. 1 では、中野駅周辺の位置づけを「中野区の顔」として示していたが、Ver. 2 では東京都の中での位置付けとして「東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点」を目指す。

(3) 各町別の個性、中野駅地区、新時代の基盤という視点でのまちの将来像

ア 個性あふれるまちの魅力づくり

- ・中野二、三、四、五丁目のそれぞれのまちの特徴や個性を捉えテーマを設定し、丁目単位でソフト・ハードの両面からのまちの将来像を示した。

イ まちをつなぐ動線づくり

- ・4つの丁目をつなぐ中野駅地区（中野駅及び駅前広場等）の整備方針を示した。

※ 詳細は「中野駅地区整備構想」参照

ウ 新時代にふさわしい基盤づくり

- ・新しい時代の基盤を「活力・賑わい」、「環境・アメニティ」、「情報化」という切り口で捉え、中野駅周辺のまち全体でどのように展開されるかを示した。

(4) 展開ステップの考え方

Ver. 1 ではおおよそ20年後のまちのイメージを示したが、Ver. 2 ではグランドデザインの策定範囲を拡大したこと、地区ごとの個性を磨いてゆくこと等から、より長期的な視点で捉えた。

Ver. 2 では、まちづくりが進み、まちが成長するイメージを10年間ごとの3段階の時間軸で示している。